

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2613回★ 丹波 虚空蔵山 722m	12月4日(土) AM 8:00 竹田駅西口集合	井戸 澄夫	竹田駅西口—京都縦貫 亀岡IC—R372—あいもと…虚空蔵山…古市(入浴)—R372—京都縦貫—京都
備 考 ・帰路, こんだ薬師温泉「ぬくもりの湯」で汗を流します。 ・参加希望者は担当者へ連絡してください。			
第2614回★ 星のブランコ	12月12日(日) AM 8:30 京阪電車 祇園四条駅 中央改札口前集合	岡田 茂久	
(参考) 8:30 京阪三条駅(8:38)中之島行 快速乗車一枚方市駅乗換—(9:29)京阪私市駅…星のブランコ…磐船神社(胎内潜り)…くろんど園地…京阪私市駅			
備 考 ・参加希望者は担当者へ連絡してください。 ・地図は担当者が用意します。(参考 1/2.5万図「枚方」,「生駒」)			
第2615回 ★ 納山祭 朝来山 虎臥山	12月18日(土) ~19日(日) 18日 AM 7:30 竹田駅西口集合	清水 康裕 岡本義弘(内線5677) 吉田 武	
18日 竹田駅西口—久世橋通り—洛西東境谷—R9—京都縦貫道—丹波IC—R9福知山本庄—山東町小谷R427—山東町迫間—朝来林道終点駐車地…朝来山往復…駐車地—山東町迫間—和田山 やど「有斐軒」泊まり 19日 「有斐軒」—R312竹田城跡(三等三角点353m)—R312和田山IC—播但連絡道—福崎IC—京都南IC—竹田駅西口 解散 【オプション】 19日 「有斐軒」—R312竹田城跡(三等三角点353m)—R9福知山岩井—長安寺…姫髪山(406m)往復…長安寺—R9福知山岩井—京都市内 解散			
備 考 ・や ど 「有斐軒」 兵庫県朝来市和田山町和田山31 TEL 079-672-2059 ・費 用 20,000円 ・装 備 冬山装備, 着替え, 嗜好品, 地図 ・地 図 国土地理院1/2.5万図「但馬竹田」,「福知山西部」 ・参加希望者は11月9日(火)集会までに担当者へ必ず連絡してください。			
第2616回★ 初登山 天ヶ瀬森林公園から槇尾山	1月10日(祝・月) AM 9:00 京阪電車 宇治駅 改札前集合	清水 康裕 堀田 剛 松田誠二(内線5802)	京阪宇治駅…宇治上神社…宇治神社…天ヶ瀬ダム…天ヶ瀬森林公園…槇尾山…天ヶ瀬森林公園…京阪宇治駅
備 考 ・参加費用:500円 ぜんざいをしますので, もちを持参願います。 ・地 図 国土地理院1/2.5万図「宇治」 ・参加希望者は担当者まで連絡してください。			

第2617回★ 檀原神宮初詣と 大和三山	1月16日(日) AM 8:50 近鉄電車 京都駅 2階改札口前集合	岡田 茂久	
(各自、檀原神宮前駅まで乗車券購入願います。¥950.-) 近鉄京都駅(9:10)檀原神宮前行 急行乗車—近鉄檀原神宮前駅—檀原神宮—畝傍山— 天香具山—藤原宮跡—耳成山—近鉄大和八木駅			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・レンタサイクル使用予定です。 ・歩行距離約11.5km, 累積登高差約300mです。 ・地図は担当者が用意します。(参考 1/2.5万図「畝傍山」) ・参加希望者は担当者へ連絡してください。 		
第2618回★ 白馬山麓 梅池スキーと 岩岳スキー	1月29日(土) ～31日(月) 29日AM 6:00 担当宅 五条通を東に行く	吉田 武	
29日 京都—名神高速—北陸道—糸魚川IC—R148—梅池スキー場—北條新田 やど「やまひら」泊まり 30日 岩岳スキー場で終日スキー やど「やまひら」泊まり 31日 岩岳スキー場で午前中スキー 帰路			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・やど 「やまひら」 長野県北安曇郡白馬村北條新田 TEL 0261-72-2358 ・費用 30,000円 ・参加希望者は担当者へ必ず連絡してください。 		
今月の集会		企画運営委員会	
日時	12月10日(金) 18:30～	日時	12月21日(火) 18:30～
場所	holly's café (ホリーズ カフェ)	場所	holly's café (ホリーズ カフェ)



秋の深まりとともに紅葉が鮮やかになってきた。山々では既に落葉した所もあると思うが、低地では今が真っ盛りである。今年は朝晩の冷え込みがあり、色付きも良いように思われる。近年に無い暑い夏を思うと、色鮮やかな紅葉にはホットするものを感じる。人間にかかわらず自然は泰然として健在である。

10月の読売新聞の記事で、奈良県の山の遭難が急増とある。1～9月で16件あり、昨年を超す勢いとなっている。奈良県の山は数年前から「大阪の都心から近く、手軽に登れる」とインターネットサイトなどで紹介され、登山者が増加し、それに伴い遭難も増えているという。今年の遭難者数は9月末までに19人(男性16人女性3人)でこのうち15人が40歳以上。7人が単独での登山だった。

上北山村の山岳救助の方は、大峰山系について「大峰山系はふもとまで行けば人里に出られる独立峰とは違い、山が連なっているので奥山に迷い込みやすい。さらに、最近はシカやイノシシが増えたことで獣道が以前より目立つようになり、そこに登山者が迷い込むケースも目立つ。」と指摘されている。

奈良県警も「登山計画は必ず提出してください。」としている。

自分を守る山行きのための参考としたい。

奈良では平城遷都1300年祭も一段落してきた。予想以上に多くの方々が来られた模様である。年内は秘宝秘仏のご開帳もまだあるようである。多くの方々に来ていただいたことを一過性に終わらせず、京都と共に魅力を発信し続け、多くの観光客にまた来ていただくことを期待したい。

関西の不景気は今年になりなお一層厳しさを増しているように感じる。活性化には今あるものを最大限活用するしかない。山行きて地方に宿泊させていただくと、「おもてなし」に以前から相当な努力を払われているのを感じる。関西はその点にやっと本腰を入れ始めたのではないか。資産はたっぷりある。今こそ意識改革の時来たりではないか。一人ではできない。が、一人一人の意識が重要である。京交山岳部に待望の新人部員が入部された。来年に向けて元気が出てきた。

(2010. 11. 23 T. H 記)

JR旧福知山線廃線跡

岡田 茂 久

22年10月3日。8:30に阪急烏丸駅に集合、目的のJR生瀬駅にはJRを利用すれば乗り換え無しで便利であるが、阪急十三で乗換え宝塚からJRを利用すれば約半額の交通費で済む。阪急特急は休日ということもあり楽々と全員固まって座席確保。さすが十三からの宝塚線は込んでいる。何十年ぶりの宝塚駅周辺はすっかり様変わりし洒落た街並となっている。

JR乗り換えも便利になり、待つことも無く三田行普通列車に乗車。予定は生瀬駅からスタートであったが、中国自動車道を走る時、いつも気になっていたJR西宮名塩駅から上部の住宅街への連絡斜行エレベーター経由で、廃線跡に行くことにした。JR西宮名塩駅はトンネルとトンネルの間の谷底にあり、上部の住宅街への連絡に斜行エレベーターが設置されている。



高低差60mを2分で結ぶ快適な設備で、階段を挟んで2基のシャフトがあり、屋根と側面はガラス張りでワイドなパノラマを楽しめる。もちろん無料でガヤガヤと乗り込んだ我々に同乗の街の人達の目が気になった。エレベーター終点の街は「ナシオン」と名付けられ小公園や植栽もあるが、コンクリートと金属の無機質の未来の住宅街然としており、昔ながらの街道沿いの街並まで降りてきて、道端の地蔵さまに出合ってほっとした。狭い旧道から民家の間から竹藪の中の石段を降りると、武庫川沿いのJR旧福知山線廃線跡にでる。

その昔、我々が何回か訪ねた道場の百丈岩、当時はまだディーゼル機関車繋引の列車で、窓から見る武庫川の美しい溪谷が印

象に残っている。

1986年JR福知山線が複線電化されるときに、武庫川沿いにカーブの続く旧線路は廃線となり、今のJR福知山線新線は生瀬駅を出ると、長いトンネル数本で道場駅まで繋がっている。当時はのんびりとしたローカル線であったが、今や通勤路線と化した福知山線では120kmの高速で電車が轟音とともにトンネルを駆け抜けている。



整備された砂利道を進むと鉄板の敷かれた橋の手前に、JR西日本の注意書きがある。「ここは廃線線路跡地であり、ハイキングコースではない。橋梁等の施設は老朽化し落石等の可能性もあり通行は危険である。関係者以外の立ち入りは認めていない。」などが書かれてあった。要するに「ハイキングコースではないから、事故等はすべて自己責任ですよ」と言うことである。しかしその割には新しい防護柵、落石注意の立て看板もあり、それなりにJR西日本も気を配っているようである。

この付近の旧福知山線線路は武庫川溪谷の右岸沿いに敷設されており、レールは撤去されているが枕木はほとんどが残っている。一つ目のトンネル（北山第一）まではきれいに整地され、鉄橋には厚い鉄板が敷かれ歩きやすい。武庫川対岸の岸壁に赤さびた鉄骨足場が見える。昔の鉸山跡かなと思っていたら、帰って資料を調べると既に計画は中止とされているらしいが、ダム建設の調査用足場と言うことであった。

朝から降雨率50%で天候は思わしくなかったが、トンネル手前でヘッドランプを用意しているとぼつぼつと落ちてきた。急いでトンネルに潜り込む。最初から延長300mのトンネルで、途中からは整地されておらず、枕木や砂利が出てきて水溜りもあり、最初の暗闇で慣れないこともあり足元がおぼつかない。トンネルを出ると本格的な雨脚となり傘をさしてのハイキングとなる。枕木



の幅が狭くなり、所々に速度標識やキロポストが残り、待避所やカーブには手信号現示場所らしい櫓がそのまま残っていたりする。

次の北山第二トンネルが、全長400メートルとこの区間の最長トンネルである。ようやく、トンネル歩きも慣れたのか余裕が出てきてランプを消して真の暗闇を体験してみたりする。

資料では北山第二トンネルを抜けると、武庫川の流れの中に「溝滝」があり、「百畳岩」、「天狗岩」、「仙人岩」などとも書いてあるが、どれが「百畳岩」やら「仙人岩」か判らない。それにしても溪谷



の景観は素晴らしい。

延長5m程の落石防止用か天井川防護用らしい短いトンネル？で雨を避けて昼食とする。

第三のトンネルは全長150mの溝滝尾トンネルで、入口には草が覆いかぶさり暗い感じのトンネルである。中でカーブしているのか短い割に先が見えない。出口に近づくと赤いトラス橋が正面に立ちほだかる。武庫川第二橋梁275mで枕木はしっかり残っているが線路部分は通行禁止で、左の縞鋼板の保守用側道を渡るように指示されている。武庫川本流に掛けられた鉄橋で、下を見ると奔流が泡を噛んで流れている。手摺の間隔が広く滑って転げると危ない。



鉄橋を渡るとすぐに全長90mの長尾山第一トンネルに入る。鉄橋とトンネル入口間に散乱している枕木は、洪水でトンネル内の枕木が流出してきたものだという事だ。トンネル入口付近は枕木が流されて歩き易いが、出口部分は道床が流されて深くえぐられており、側溝部分だけが残って非常に歩きにくい。

このトンネルを抜けると武庫川左岸の線路敷となり、武庫川の流れも一変し穏やかになる。廃線跡も遊歩道のようになり、植栽された木々と平たい石のベンチが現れる。

辺りに桜の木が目立ってくると、水上 勉の「櫻守」の舞台になった場所で、笹部新太郎先生という科学者がモデルである。桜をこよなく愛し周辺の山林を所有するとともに、道路がないので自ら列車を借り切って付近に停車させ、苗や肥料を運んだり人夫の乗降をさせたということである。先生が亡くなったあと宝塚市によって現在は「桜の園」と言う名で管理されている。

ここから「桜の園・亦楽山荘」を経て大峰山往復の予定であったが雨のため中止とする。心は早くも武田尾温泉の暖かい浴槽に飛んでいる



この後、長尾山第2トンネル(150m)、長尾山第3トンネル(90m)がある。いずれも枕木は残っているが距離は短く遊歩道

の一部となっている。最後の僧川(ほうさんがわ)鉄橋を渡ると武田尾の集落で、トイレは僧川鉄橋の手前の広場までは全くない。廃線入口から武田尾までは昼食時間含み3時間もあれば十分である。

僧川からの廃線跡延長部分は舗装道路となり、15分程でホームの大部分がトンネル内に建設されている新武田尾駅に着く。その先の廃線跡にも舗装道路が続き、途中で通行止めとなるトンネルに入るが、トンネルの真横に繰り抜かれた出口を抜けると、赤い鉄橋が武田尾温泉に導いてくれる。

武田尾温泉は関西の奥座敷と言われた頃の面影はなく、うら寂びた温泉という感じであった。

【参加者】 井戸澄夫、夫人、三橋 勉、和田良一、夫人、渡辺智生、岡田茂久

【第2609回例会報告】

岳連自然保護委員会 保津峡、清滝川地質観察会

岡田茂久

22年10月17日。9:30にJR保津峡駅集合、参加は一般参加者及び自然保護委員を含めて33名で、水尾川の鉄橋を渡り保津川右岸の府道嵯峨亀岡線に沿い落合に向かいます。

保津川の流れは亀岡盆地の外れJR馬堀駅付近から深い溪谷となります。古生代第4紀に入り京都西山は序々に隆起を始めました。山地が形成される前から流れていた川の浸食量が山の隆起量より大きい場合は、流路を掘り下げて山地を横断する地形を作ります。それを「先行谷(せんこうこく)」と言います。それまで蛇行しながらゆったりと平野部をながれていた保津川は、この隆起部を横切ることになりますが、保津峡は川の浸食が山の上昇より速かったため、流れを大きく変えることなく元の蛇行の名残を残したまま、深い溪谷となり美しい景観を作り出しました。このような溪谷の形成を「穿入蛇行(せんにゅうだこう)」と言います。

道は登りとなり、右は保津峡の溪谷を隔てて保津峡駅のホームを正面に見るあたり、右手の崖を急登する小道は愛宕山に続く「つつじ尾根」の入り口です。山側は殆どコンクリートの擁壁ですが、処所に露出している濃い灰色の岩を「頁岩-けつがん」と呼びます。本の頁をめくるように薄くはがれ易い処

から名づけられました。トンネル手前左手に聳えている露岩を「壁岩」と言います。京都付近では普通に見られる「チャート」言われる板を重ねたような硬い岩で、ユズリナや放散虫等の化石を含んでいます。硬い岩の間のやや柔らかい岩も「頁岩-けつがん」です。チャートは約2億年前に海で推積されたもので、巨大な地圧で押しつぶされて硬い岩となったもので、昔は火打石にも使われました。頁岩の内で砥石形珪質頁岩と言われるものは、近辺では昔は「鳴滝砥」として有名で高尾、愛宕山、越畑でも採掘されていました。

トンネルを過ぎたあたりから、急な保津峡側の急ながけに「ドングリ」の木が目立ちます。「あらかし」と「しりぶかかし」です。その中で特に保津峡の「しりぶかかし」の群落は日本でわずか8ヶ所で、しかも植生の北限と東限でもあり、近畿地方ではここだけに生育する貴重な植生だということです。保津峡がそんなすごい処とは知りませんでした。「しりぶかかし」の特徴は、葉に棘刺（とんがり）が無くやや小ぶりの葉。実が1かたまりになって付いている。名前の通りハカマをとると実の尻が深く凹んでいる。磨くと強い光沢が出ることです。

トロッコ保津峡駅を対岸にして吊橋を過ぎ、トンネルの手前を右の小道を入ると落合です。京交山岳部では懐かしい処で、我々の子供たちが小さいころ歓声を上げて懸垂下降していた姿が浮かびます。納山祭で狸を生け捕りしたこともありました。



ここで清滝川が合流します。対岸には縞模様の良く判かるチャートの書物岩が聳えています。落合では清滝川の浸食が弱いので保津川の川底と段差が出来ています。「不協和的合流」と言い段差がもっと大きいと滝の掛かる「懸谷」となります。

落合のトンネルをくぐり、赤い鉄橋を渡り清滝川沿いの京都一周トレイルの道に入り潜没橋の下清滝橋で記念撮影。清滝川も「穿入蛇行(せんいゆうだこう)」をしています。

清滝では愛宕表参道の鳥居の前から月輪寺への道に入ります。京都一周トレイル標識北山93で舗装道路と別れ右の地道を下ります。国土地理院の1/25000地図では坂を下るとすぐに左岸に川を渡っていますが、実際は右岸沿いに進み合流点近くで木橋を渡ります。しばらくは落石の多い滑りやすい岩場の道を進みますので気をつけましょう。この付近対岸の140mピークは大きく屈曲していた清滝川が、現在の川筋のように短絡した流路になったあとの「還流丘陵」と言う地形です。湿原等ではよく見られますが河川では珍しい地形と言うことです。

紅葉の美しい広場を過ぎ潜没橋(通称小泉橋)を渡り、右に菖蒲谷に向かう道を分けると、美しい杉の植林の中の林道になります。しばらく林道を進み清滝発電所の取水ダムを見ながら清滝橋を渡ると高雄です。橋の手前対岸の岸壁を見上げると中間に大きな蜂の巣が見えます。高雄神護寺の「かわらけ投げ」の皿がよく無傷で見つかることがあるのもこの辺です。よほどうまく上昇気流に乗ったのでしょうか。石段では無く防災道路を登り神護寺の山門前につきます。

神護寺の平らな地形は現在の清滝川より100mも高いところですが、ここはかつての河原であった「還流丘陵」です。少し北の西明寺は神護寺より一段低い「還流丘陵」です。西明寺の裏手の崖の「コバナミツハツツジ」の群落は5月上旬の見ごろは素晴らしいですね。

榎尾で国道162号線にて「白雲橋」を渡ると左手空き地の山側に、きれいに「層状チャート」が露出しています。高山寺参道を左手に分け榎尾の駐車場広場につきました。高山寺も駐車場広場も「河岸段丘」に作られています。榎尾の駐車場広場での解散は15:30分、初秋の1日本当に勉強になりました。これからはまた違った目で自然を見ることが出来るそうです。(当日配布の資料を参考)

【参加者】 三橋 勉, 坂田利春, 方山宗子, 岡田茂久

【第2611回例会報告】

新入部員歓迎登山 愛宕山と柚子風呂

清水 康 裕

岡田浩一君が7月に入部されて、もうすでに4箇月も経ってしまった。開催が遅れてしまって申し訳ない気持ちを抱きながら山行した。前日に松田氏から連絡があり、岡田君の友人の醍醐検車区勤務

の西口君も参加したいということである。私は西口君には仕事上お世話になっている。営業終了後、醍醐車庫内からモーターカーで出発するとき信号の現地扱いをしてもらっているのだ。そう言えば、深夜に一度構内電話から会話したこともある。ベルクカメラートが増えるのはこの上なく嬉しいので、水尾柚子風呂「丸源」に1人追加を連絡した。「丸源」は快く了解してくれた。

岡田君が表参道から登ったことがないと言うので、清滝バス亭集合で表参道から登ることにした。清滝駐車場横のトイレへ西口君が行ったあと鳥居をくぐってスタートした。2人ともそれぞれ単独や家族と山に登っていて、頼もしく健脚である。他の登山者をスイスイ抜いて行く。私は付いていくのに息をハアハアいわせていた。赤ちゃんを背負子で背負ったお父さんとその家族の姿、爺さんから子供まで一家で登る皆さんが沢山見られた。いつものように、すれ違う人たちに「こんにちは」と声を掛けていると、山脇武さんが建てられた小屋付近で「おお！」とパターンから外れる声が返ってきたのでよく見ると、坂田利春先輩が他2人の方と一緒に下りてこられたのだった。簡単に若い2人を紹介して分れた。普段は山脇さんの小屋から嵐山やずいぶん南の方まで眺めが良いはずなのだが、前日から季節はずれの黄砂が吹いていて秋晴れなのに霞んで視界が利かない。そこから少し登ってツツジ尾根を教えなくなった。JR保津峡駅の方に延びるツツジ尾根への分岐は標識が掛ってないので見つけにくいだが、その場所を教えることができた。私も大槻先輩に教えてもらったのだが、無事後輩に伝達できた。水尾分れで、あとで下るときは水尾の方に下りるのだと一応説明しておいた。黒門では一礼して入った。これは坂田先輩からの受け売りである。社務所では休憩所のテーブルに埋め込んである広沢誠吉さんの「キリマンジャロの石」を見せた。鉄馬で登られたので凄いのだと説明しておいた。愛宕神社の階段の途中に向かって右にある(敬称略)坂田利春、台川敦美、山脇武、花岡弘武らの方々の名前が刻まれた水奉納の標石を紹介した。

愛宕神社本殿に着き、竹田・醍醐両保線区に貼っていた古いお札を返納したあと、賽銭を入れ願い事をし、新しいお札を購入し、休憩所に入った。さすがにまだストーブに火は入っていなかった。

14:00「丸源」を予約していて、時間に余裕があり折角来たのだから、若い2人を三等三角点まで連れて行った。松田氏は疲れて先に下りて水尾分れの小屋で待つとのことだった。いつもより少しだけ多くの方が三等三角点に行っているようだ。三等三角点付近では大学生みたいな2人と1組の夫婦が食事していた。私の掛け声で3人が万歳三唱したら、2人は少し恥ずかしそうだった。

堀田氏が遅れて参加していて、下りの黒門で会った。安易に水尾分れから直接水尾に下ると予想していたが、さすが京交山岳部員の一員である。某所に貼られていた古いお札を愛宕神社へ返納しに行くと言っていた。

水尾「丸源」には良い時刻に到着した。「丸源」は吉田武先輩に教えていただいた。今じゃ御用達となった。「丸源」の女将が挨拶に来られ、「吉田さんはどうしておられますか。」と尋ねた。今日、「吉田先輩の都合が良ければ直接「丸源」へ来られるはずでしたが、連絡がないので都合が悪くなり来られなくなったのだと思います。」と返答した。柚子風呂に入っていると堀田氏が入ってきて、思ったより早く下りてきたので驚いた。風呂のあとは、鳥の水だきの鍋をつつき、呑んで食って話した。帰りはいつものようにJR保津峡駅まで「丸源」の車で送っていただいた。

【参加者】 岡田浩一、堀田剛、松田誠二、清水康裕、他1名

【コースタイム】 2010年11月13日(土) 晴れ

9:40清滝バス停…9:53鳥居…11:00山脇武さんの小屋…11:10水尾分れ…11:30石段下休憩所
 …11:45愛宕神社12:10…12:25三等三角点12:30…12:50黒門…13:05水尾分れ
 …13:50水尾柚子風呂「丸源」16:35—16:50JR保津峡駅—

例会報告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
2606	JR旧福知山線廃線跡	10月3日	雨	岡田 茂久	井戸澄夫F1 三橋 勉 渡辺 智生 和田良一F1	(別稿詳報)
2609	清滝川自然観察会 〔地質〕	10月17日	晴	岡田 茂久 方山 宗子	坂田 利春 三橋 勉 他 29名	(別稿詳報)
2610	木曾付知周辺の山旅 二ツ森山 高時山 高時山	11月6日 ～7日	晴	岡田 茂久	方山 宗子 森本 清一 吉田 武 鷺見壽未子 渡辺智生F1	(次号報告)

2611	愛宕山と柚子風呂 新入部員歓迎登山	11月13日	晴	清水 康裕	岡田 浩一 堀田 剛二 松田 誠二 他 1名	(別稿詳報)
2612	府民 紅葉観察会 京都一周トレイルコース 沢山方面	11月14日	曇	岡田 茂久 方山 宗子		(次号報告)

雑 報

- △△△ 11月の集会
 日 時 11月9日 (火) 18:30～
 場 所 holly's café (ホリーズ カフェ 烏丸四条西入ル)
 出席者 井戸, 岡田, 方山, 三橋, 森本, 吉田, 渡辺, 和田, 清水 以上9名
 内 容 例会報告, 例会予告, 個人山行, 岳連関係報告ほか
- △△△ 10月の企画運営委員会
 日 時 10月20日 (水) 18:30～
 場 所 holly's café (ホリーズ カフェ 烏丸四条西入ル)
 出席者 井戸, 方山, 清水 以上3名
 内 容 例会予告, 岳連関係報告ほか
- △△△ 他山岳会の会報 (受贈分)
 11月号 一等三角点, 北山, 京都山岳, 趣味の登山, 青嶺, 比良山岳, 木雞, わっぱ
- △△△ 部報の製本について
 2003年4月号～2010年3月号の製本を行いますので, 希望者は担当者 吉田
 まで連絡し, 今回製本に該当する分の部報を担当者に預けてください。
- △△△ 平成22年度部費受領者について
 11月19日現在, 前号までに掲載しました部費受領者に加えて, 次の方々から平成22年度
 部費を受領しましたので報告します。(敬称略) 大倉寛治郎
- △△△ 平成23年1月集会兼新年会のお知らせ
 担 当 者 松田 誠二
 清水 康裕 堀田 剛
 日 時 平成23年1月7日 (金) 18:30～
 場 所 「かごの屋」四条烏丸下ル 地下鉄四条駅6番出入口前 TEL 075-353-8936
 ※京交山岳部 清水名で予約しました。
 会 費 5,000円 (当日徴収)
 参 考 参加希望者は, 1月4日 (火) までに必ず担当者まで連絡をお願いします。

△△△ 初登山地図

